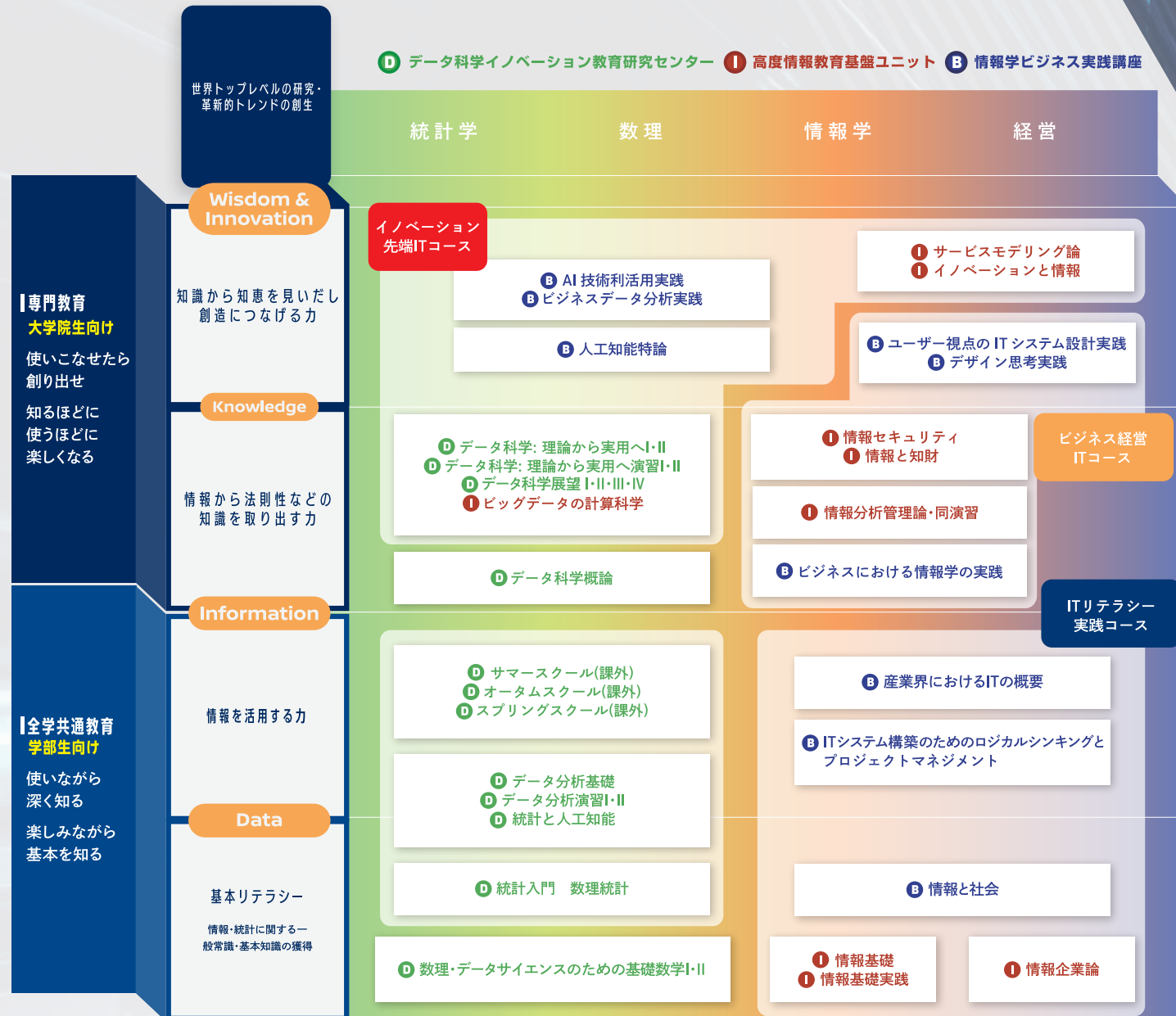


学内組織との科目提供連携マップ

高度情報教育基盤ユニットは、京都大学内の関連する部局や組織と連携しながら、情報活用・データサイエンス・AI教育を強化し、学生がより明確な指針をもって学修できるような科目提供を行っています。



京都大学 学際融合教育研究推進センター
高度情報教育基盤ユニット



京都大学 学際融合教育研究推進センター
高度情報教育基盤ユニット

お問い合わせ: iedu@i.kyoto-u.ac.jp

垣根を超えて 創造的未來を拓く 情報利活用の力を あなたに

高度情報教育基盤ユニットは、平成26年度文部科学省特別経費「学部・大学院共通情報教育の革新と教育情報化によるグローバル人材の育成」事業が認められ、その実施のため学際融合教育研究推進センター内に設置されました。多様化・国際化する現代社会の様々な分野で活躍する人材を養成するには、学士課程、修士課程、博士後期課程、専門職学位課程で高い専門性を涵養するとともに必要な情報、有益な情報を取捨選択し、活用に導くことのできる力を身につけさせることが重要となってきています。当ユニットではインターネットの活用やプログラミングなど従来の一般情報教育とは一線を画した、情報の獲得・生成・発信、ビッグデータの分析・管理・収集、情報の提示・可視化など有効な情報の利活用を行う能力（高度情報リテラシー）を涵養するため、学部や研究科の垣根を超えた全学共通教育科目および大学院向け研究科横断科目を企画・開講し、それぞれの専門分野の研究にて情報技術を駆使して推進できる人材を養成しています。合わせて教育科目をより効果的に実施するために、講義科目やコースの整備、教材コンテンツ改良・改善、オンライン講座や講義アーカイブの活用など教育の情報化を推進しています。

さらにAI(人工知能)・ビッグデータ解析などにより変革する社会に対応すべく、2017年に国際高等教育院に設置された「附属データ科学イノベーション教育研究センター」と連携し、AIなど情報学とデータ科学が融合した新規分野を、全学の学生が学べるような新たなカリキュラム・教材を開発・実施する体制の構築を目指しています。

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、ITの活用が急激に加速することが必至となった今、これからの社会を構築する役割を担う学生には専門分野に関わらず必要不可欠なものとして情報利活用力を身につけ、情報コミュニケーション能力や国際性を高めて欲しいと考えています。

教育の情報化

- 座学・PC教室での一斉授業からBYDO方講義環境へ
 - タブレット機器・PC必修を前提とした通常講義室のIT化
 - アクティブ学習設備で対話教育・学生理解度把握



従来の講義室やPC教室での一斉授業



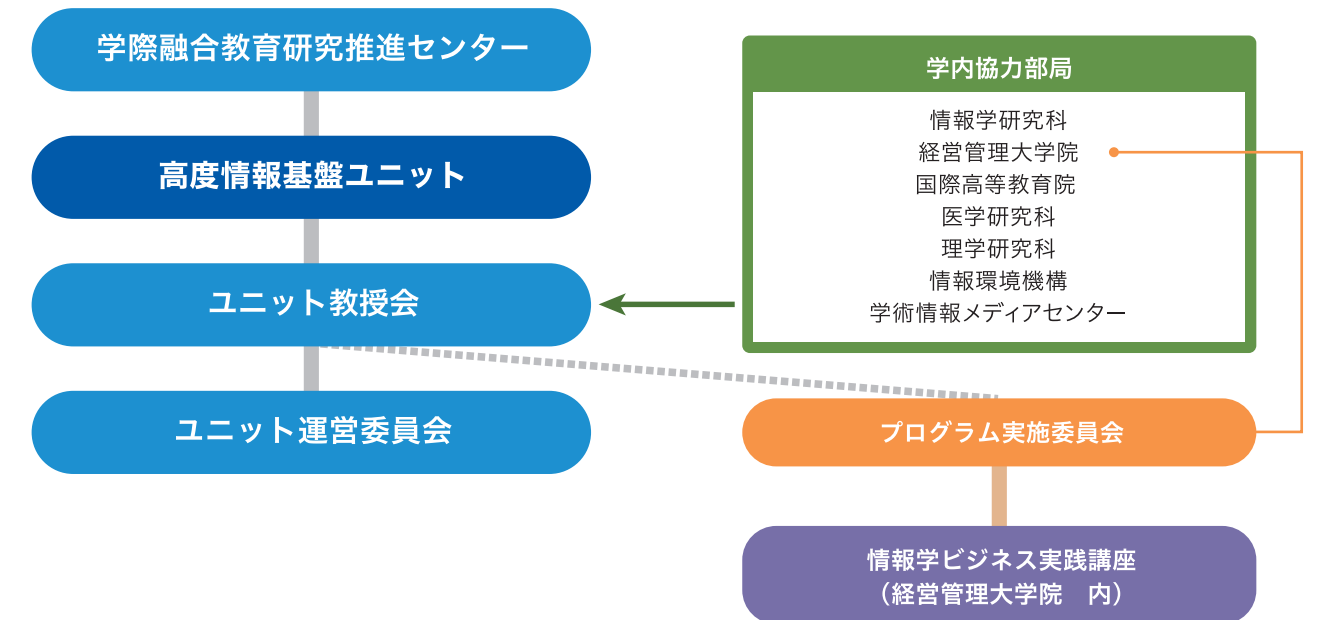
タブレット機器による講義・演習
アクティブ学習教室での対話講義

- オンライン講座
 - オンライン講座・講義アーカイブを用いた学習



講義アーカイブによるオンライン講座

組織図



情報教育の革新

従来の情報教育

コンピュータリテラシー

コンピュータの仕組み

大半の大学での
情報教育内容

情報機器・ネットを
使いこなせる能力

本事業で実施する情報教育

研究推進力としての
高度な情報利活用能力

情報利活用能力
(獲得・生成・収集・分析・提示)

本事業で実施する情報教育

情報リテラシー・データリテラシー

社会における情報の取扱い

全学必修の
情報教育内容

コンピュータ、
OS・言語ソフトや
インターネットの仕組み
(計算機工学・計算機科学)

本事業で実施する情報教育

社会における情報の取扱い
(社会と情報)

イノベーション基盤教育
(技術管理、ビジネスモデル)

情報リテラシー、
データリテラシー、
情報の取扱いが
今後重要に！

ごあいさつ

当ユニットは、ITが非常に進んだ時代の、学部および大学院の新しい全学共通情報教育カリキュラムの策定・実施を行うとともに、このための教材コンテンツや教育・FD支援システムの開発などを行います。

具体的には、情報科学・計算科学・データサイエンス、情報社会制度（情報倫理・セキュリティ、知財、社会情報システム）、イノベーション基盤（MOT、情報ビジネス論、ITサービス、情報知的活用）の3分野で教材開発を行い新規科目として全学実施します。特に、大学院向けの研究科横断型の教育科目を設計し開講することを特徴としています。



高度情報教育基盤ユニット
ユニット長
情報学研究科・知能情報学 教授

山本 章博